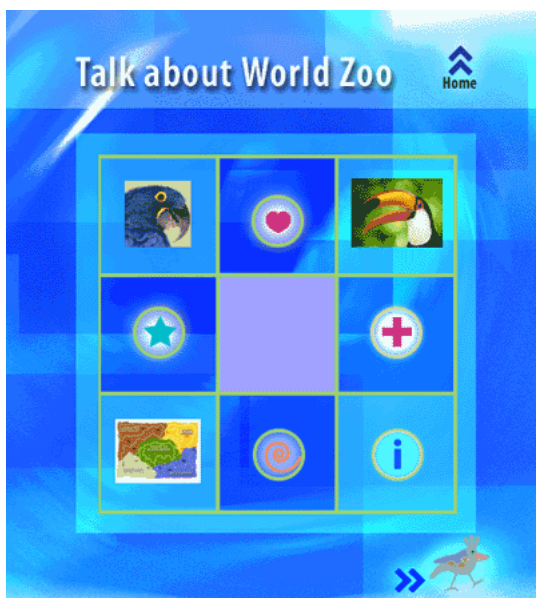


Adobe GoLive

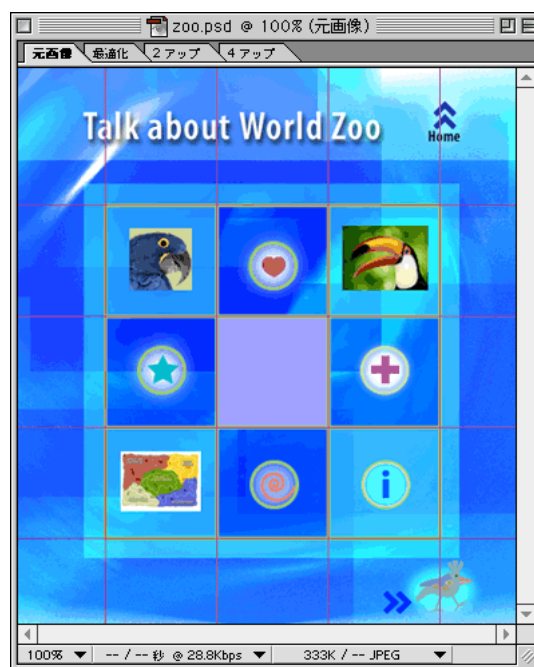
画像をスライスしてすばやく Web 作成

スライス画像には多くの活用があります。Photoshop® 6.0 であらかじめ作成しておいた単一の大きな画像をスライスすることによって Web ページ全体を作成することも可能です。Photoshop 6.0 に付属している Adobe® ImageReady™ 3.0 を使うと、画像を別々のスライスに分割することができます。スライスは、ナビゲーションリンク、ロールオーバー効果のトリガ、またはほかの画像を表示するためのプレースホルダに使用します。次に Adobe GoLive™ で、スマート Photoshop オブジェクトとして画像をページ上に配置します。以下の手順では、画像をスライスして Web ページで使う方法をご紹介します。



1. ImageReady で画像を開きます。

まず、画像をどのように分割して Web ページを作成するか決めます。一般的な Web ページには、ナビゲーションバー、バナー、ボタン、メインの画像や情報の表示領域などがあります。まず内容に沿った大きな区分を作り、その後、ボタンなど個別の要素のスライスを作成します。画像をどのようにスライスに分割するかを計画するときには、ガイドを使うと便利です。



2. 画像をスライスに分割します。

スライスツールを選択します。画像の一部をドラッグして囲むとスライスが作成されます。画像が複数のスライスに分割されたことに注意してください（作成したユーザ定義スライスと、画像の残りの部分にできる自動スライス）。引き続き、画像のそれぞれの部分をドラッグして囲み、さらにスライスを作成します。画像をスライスに分割するときには [スナップ先] - [ガイド] および [スナップ先] - [スライス] コマンドを使うと便利です。

スライス選択ツールを使うと、ユーザ定義スライスを選択してサイズを変更することができます。スライスのサイズを変更するには、スライス選択ツールでスライスをクリックし、いずれかのハンドルをドラッグします。



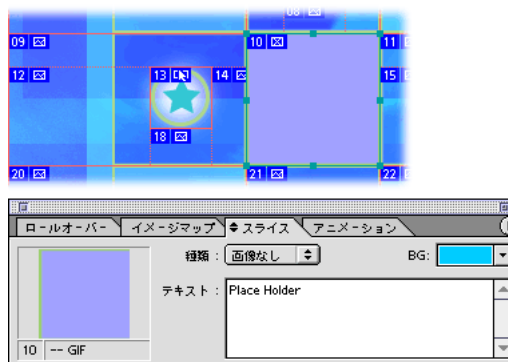
3. 現在の選択内容から正確なサイズのスライスを作成します。

ImageReady の選択ツールのいずれか（自動選択ツールなど）を使って画像要素を選択します。[スライス]-[選択範囲からスライスを作成]を選択します。小さな画像要素からスライスを作成するには、この手順を繰り返します。より正確なサイズが必要な場合は、スライスのサイズを手動で変更することもできます。スライスには常に長方形ですが、小さい画像要素や不規則な形の画像要素の場合には、正確なサイズのスライスを作成すると特に有効です。



4. 画像なしスライスを作成します。

画像スライス以外に、テキストや背景色を含むか、またはブレースホルダなどの機能を持つ「空の」スライス（「画像なしスライス」と呼ばれます）を作成することができます。画像なしスライスを作成するには、スライスを選択し、[スライス]パレットの[種類]ポップアップメニューから[画像なし]を選択します。背景やテキストを追加することもできます。



5. スライスに名前を付けます。

名前を変更するスライスをスライス選択ツールでクリックします。[スライス]パレットで、現在のスライス名を選択し、わかりやすい名前に変更します。スライス名を変更してわかりやすい名前にすると、スライスを使った作業がしやすくなります。リンクを設定するスライスは、[スライス]タブの[URL]フィールドにリンク先（<http://www.adobe.com> など）を入力します。こうすると、スライス全体が、指定した URL へのハイパーリンクになります。



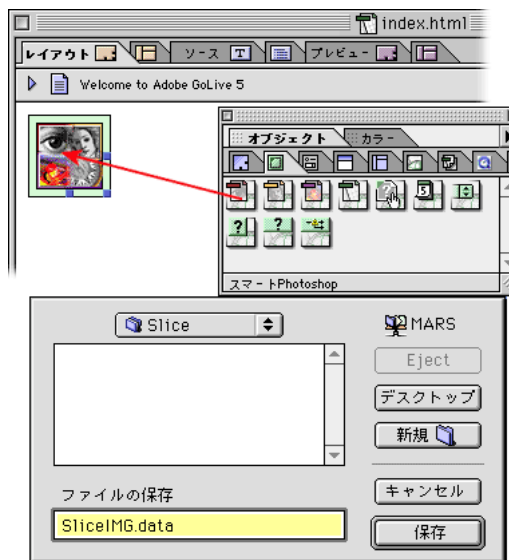
6. 各スライスの最適化設定を行います。

各スライスについて、[最適化]パレットを使って最適化設定を行い、もとの Photoshop の .psd ファイルを保存します。画像内の写真を含むスライスには JPEG 圧縮を使い、他のスライスには GIF 圧縮を使うということが可能です。Adobe ImageReady では最適化方式を自由自在に組み合わせて使うことができます。作業が完了したらファイルを保存します。



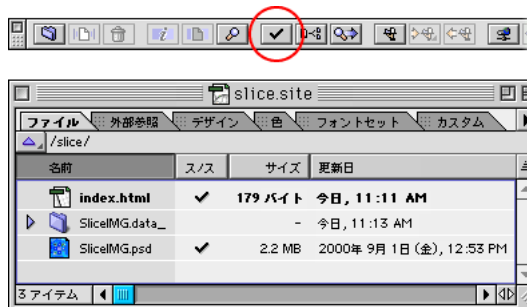
7. スライスした画像を、スマート Photoshop オブジェクトとして Web ページに配置します。

ImageReady での画像の処理が終わったら、Adobe GoLive を起動してサイトを作成します。[オブジェクト]パレットの [スマート] タブからスマート Photoshop オブジェクトをサイトにドラッグします。ライブイメージインスペクタで、スマート Photoshop オブジェクトのソースに、スライスした画像ファイルを指定します。ダイアログボックスが表示されたら、スライス画像データを保存する場所を指定します。スライスを入れておくデータフォルダが自動的に作成されます。



8. [更新] ボタンを使ってサイトウィンドウを更新します。

[サイト] ツールバーの [更新] ボタンをクリックしてサイトを更新し、サイトファイル内にスライスデータのフォルダが表示されるようにします。[イン/アウトリンク] パレットを開いてリンクをチェックすることもできます。



9. 画像なしスライスのテキストを変更します。

画像なしスライスを選択し、テキストの変更やグラフィックの挿入を行います。ページをブラウザでプレビューし、ページ本体やページ内のさまざまな要素が意図した通りに動作するか確認します。変更を加える場合、スライスは Adobe GoLive 内で直接更新することができます。

Web ページ全体をスライス画像から作成するテクニックは、ページを短時間で簡単にデザインするのに有効です。

